

## 第4回白馬村地域公共交通検討委員会 議事録

日 時	平成 31 年 2 月 21 日 (木) 午後 1 時 30 分～	
開 催 場 所	白馬村役場 多目的ホール	
委 員 長	藤本 元太	白馬村副村長
出 席 委 員	高瀬 達夫 田代 雅子 速水 政文 鈴木 均 岩瀬 隆 高梨 光 福島 洋次郎 津山 健次 遠藤 孝 松沢 孝行 風間 雅裕 上條 良民 大日方 悦夫 柳沢 剛 (代理：小松) 井藤 太亮 (代理：高澤) 高山 和良 (代理：荒井) (随 行：高橋) 横山 秋一 松澤 忠明 藤巻 孝之 ※敬称略・順不同	信州大学水環境・土木工学科 准教授 公募委員 公募委員 走れ村バスの会 走れ村バスの会 一般社団法人 HAKUBVALLEY 索道事業者プロモーションボード代表 一般財団法人白馬村観光局事務局長 アルピコ交通株式会社白馬営業所長 有限会社白馬交通代表取締役社長 社会福祉法人白馬村社会福祉協議会事務局長 白馬観光タクシー株式会社代表取締役 アルプス第一交通株式会社代表取締役 東旅客鉄道株式会社白馬駅長 長野県北アルプス地域振興局企画振興課課長 国土交通省北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長 国土交通省北陸信越運輸局長野運輸局首席運輸企画専門官 白馬村役場観光課課長 白馬村役場健康福祉課課長 大町市役所総務部情報交通課課長
欠 席 者	栗田 祐二 薄井 浩章 横澤 勲	一般社団法人大北医師会北部理事 アルピコタクシー株式会社大町支社長 小谷村役場観光振興課課長
事 務 局	矢口 浩樹	白馬村総務課政策企画係長
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 委員長あいさつ</li> <li>3. 会議事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第3回検討委員会の指摘事項について【資料1】</li> <li>(2) 計画推進に向けた展開について【資料2】</li> <li>(3) 白馬村地域公共交通網形成計画(まとめ)について【資料3、資料4】</li> <li>(4) パブリックコメントの実施について</li> </ol> </li> <li>4. その他</li> <li>5. 閉会</li> </ol>	

配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"><li>○資料 1 : 第 3 回検討委員会の指摘事項について</li><li>○資料 2 : 計画推進に向けた展開について</li><li>○資料 3 : 白馬村地域公共交通網形成計画 報告書</li><li>○資料 4 : 白馬村地域公共交通網形成計画 概要版</li><li>○資料 5 : 第 3 回白馬村地域公共交通検討委員会における主な議論について</li></ul>
---------	--

発 言 者	発 言 内 容 等
<p>委 員 長</p> <p>高 瀬 委 員</p> <p>委 員 長</p>	<p>1. 開会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>3. 会議事項</p> <p>(1) 第3回検討委員会の指摘事項について【資料1】</p> <p>(2) 計画推進に向けた展開について【資料2】</p> <p>(事務局より、第3回検討委員会での指摘事項についての説明並びに、資料1、2の説明)</p> <p>・事務局の説明について意見等ある方はいるか。</p> <p>・資料2 2ページにある、事業⑤⑥について、成果指標をアンケートの回答数にしてしまうと、回答者数のばらつきによって正確な評価をすることができない。回答者数でなく割合での指標が良いと考える。</p> <p>・7ページ 計画推進に向けた展開について、公共交通会議等で村民を交えて協力・連携を図っていくことは分かる。そのほかの手法として、例えばデマンド型乗合タクシーについて検討を行う場合には、利用者との協議や検討会を実施することが有効策としてある。アンケート結果よりデマンド型乗合タクシーの利用率は全体の約6%である。また、60歳以上の住民の認知度は高いものの利用に繋がっていない状況にある中で、なかには家族に送迎をしてもらっている方や自力での自動車の運転が困難な方がいるのではないだろうか。そういった方々に利用してもらうための話し合いを行える場が必要であると考え。こういった会議では、実際に利用している方や利用したい方の意見はあまり出てこないため、そういった方々と意見を交換する必要がある。</p> <p>・(仮)村内循環バスルート計画(案)について、既存のシャトルバスにはそれぞれ性格があり、それぞれのニーズに合わせて経路等が考えられている。ルートを検討する際は、それらの路線を繋いで線として描くだけでなく、現状のニーズをしっかりと把握した上で経路を選定する必要がある。たたき台であるのはわかるがミスリードしてしまうことがある為、注意すべきである。循環バスを検討する上での基本方針が記載されており、スキー場への移動のニーズと村民の生活交通といったニーズにこたえる旨ではあるが、その二つのニーズにこたえるのはとても難しく、村民の生活交通のニーズに若干偏った経路であると感じられる。最初の起案の部分は今後の検討を行う上でとても重要な段階であるため、様々なニーズや、既存交通の性格をよく噛み砕いた上で経路の検討を行う必要がある。</p> <p>・目標値に関しては、パーセンテージでの表記とした方が良いと考える。また、目標の時点は、平成37年になるのだろうか。</p>

事務局	・そのような理解で問題ありません。
委員長	・デマンド型乗合タクシーに関しての検討についても、現在利用している方や、今後利用しうる方々に対し話し合いの場の設置を検討すべきである。 ・ルート案についても、今後更に検討を進めるべきであると考えている。
鈴木委員	・今回提案された、村内循環バスに関する検討は資料3「白馬村地域公共交通網形成計画 報告書」には明記されていない。循環バスの検討の位置づけとして、報告書のなかに基本方針や事業計画として明記されないのだろうか。
事務局	・資料2 11ページ以降の村内循環バスの検討については、これまでの協議資料として文字のみの表現が多かったことから、図としてイメージできるような資料として提示させていただいた。そのため、資料3の報告書の中に表記されるものではない。具体的な検討については、目標の⑦⑧などの中で実施していく予定であり、事業者や村民の方々の意見を聴取しながら検討実施する考えとなっている。
鈴木委員	・今回提案のあったルート案を提示することは良いことであると考えている。その中にある(仮称)村内循環バスの基本方針については、今後どのような場で検討されるのだろうか。事業スケジュールにある平成31年から平成34年までの3年間で行う内容なのだろうか。そうした場合、今回の検討委員会で協議しなくてはいけないのではないだろうか。循環バスの検討についての表記がないと、正式な課題や検討内容として扱われないのではないだろうか。運輸局の方にお話を伺いたい。
小松代理	・事務局の説明にあったように、あくまでイメージであり検討段階であるのならば、報告書に記載する必要はないと考える。循環バスとしての検討を記載しなかったとしても、循環バスを検討しないとといった内容になるわけではないため、今後検討委員会などを発足した上で具体的な検討を行うものであると考えている。また、事業を実施していく中でも見直しや中間評価の時点で循環バスを含めた検討を行っていく計画であるように思う。
鈴木委員	・13ページの(仮称)村内循環バスの基本方針については、この場で議論しないとそのまま変わらず進んでしまうのだろうか。
委員長	・村内循環バスの検討については、今後事業者や村民との調整が必要であり詳細な検討をした上で固めていく内容である。そのため、今回の検討委員会の中で決定を行う段階ではないものである。

速水委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10ページの事業スケジュールについて、全体的に検討から実施までの期間が長いように感じる。小学校や中学校の通学者が抱える問題は多く、6年間の検討実施を短くできないだろうか。また、どの組織がどのように実施するのか明記されていない。地域公共交通会議は年に1回のみ開催であるため検討機関としては当てはまらないため、だれが各事業に取り組むのかが明記されていない。</li> <li>・PDCAのサイクルについては、何年ごとにサイクルを回すのか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討を実施する主体については、事務局の説明と8ページにあるように各事業者とで部会のようなものを開き、検討をし、地域公共交通会議の中で決定を行う流れである。</li> <li>・スケジュールが長すぎるとの話であったが、最低限設定した期間の中で検討及び計画実施を行うものであり、必ずしも設定した期間を満たさないと何も実施されないといったものではない。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回設定した期間の通りに検討等を進める必要は無く、検討内容次第では3年後実施だったものが2年に短縮して実施する事もあり得る。また、今回事業スケジュールを組んだ経緯については、各事業者とのヒアリング内容を加味したことと、事業③④での課題解決の検討と事業⑦⑧での課題解決の検討を一体的に考える必要がある事業でもあることから、このような事業スケジュールとなった。</li> </ul>
高梨委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11ページの今後の検討に活用する路線について、「② スキー場間を結ぶバス」とあるが、ここで指しているものはスキー場とスキー場を結ぶバスとスキー場と宿泊施設を結ぶバスどちらのことなのだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「スキー場間を結ぶバス」については、スキー場同士だけに限らず、スキー場と宿泊施設等を結ぶバスを意味している。</li> </ul>
高梨委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の村内循環バスの考え方は、索道事業者が行っているスキー場を起点とした交通とは異なったものという理解でいいのだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この案については、それぞれの事業者が効率的に運行できるよう検討しており、経路が重なった部分においては統合したり、足りない部分の需要や経路に関しては、各事業者に補ってもらう様に考えている。</li> </ul>
高梨委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3市村を跨ぐ白馬バレーの交通を考える上で、海外の事例として知ってほしい。広域でスキー場を結ぶ交通形態にはパターンがあり、オーストリアのレヒ等では村内で完結する交通と村内と村外を結ぶ2種類の交通体系を組んで</li> </ul>

	<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・15ページの分類の記載として、宿泊集積地を追加した方がいいと思う。また、主要観光地として八方のスキー場が抜けている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の検討を行う際に参考とさせていただく。</li> </ul>
田代委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15ページについて、教育施設の中に白馬幼稚園が抜けている。</li> <li>・2ページについて、⑤⑥の成果指標の中でアンケート結果が採用されているが、今後アンケートを実施する際には、送迎する理由がわかるような項目としてほしい。距離や危険性から送迎を余儀なくされているのか、寝坊等を理由に送迎をしているのかを分かればより正確な調査結果が得られるのではないだろうか。</li> </ul>
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年3月の地域公共交通検討委員会の議事録では、事務局の発言として、「新たな学校通学の需要が多い為、観光交通システムとは別に通学交通システム等の構築を検討する必要があり地域公共交通会議にて通学交通システムの構築を提案する。」との発言がある。200日以上通学のために送迎している家庭も多い。今回別紙で用意した落倉地区のアンケートにあるように、地域の要望は高いなかで実現までに6年もかかるのだろうか。小学1年生のお子さんが卒業してしまう。JRを利用している通学者もいるが時間帯が合わないなどを理由に利用していない人もいる。また、白馬中学の公衆電話は1台しかなく、帰宅時はとても混雑している。また、冬期の駐車場は何十台も送迎の待機車両がある。補助内容とすると、通学の補助金といった形の補助しか出していない。通学の支援の内容を決めるには、たくさんの調整等が必要になると思うが、是非早めの検討・実施をしてほしい。要望並びに提案として、循環バスとスクールバスに関する検討を行う旨を、資料3の報告書の中に明記してほしい。公共交通会議等で議論すべきであり区長や保護者との懇談会も必要であるとする。現在の検討内容として、大型バスを前提に検討しているが経路等での制限が生じてしまう為、循環バスの検討の方針については再考すべきである。</li> </ul> <p>(3) 白馬村地域公共交通網形成計画(まとめ)について【資料3、資料4】</p> <p>(4) パブリックコメントの実施について</p> <p>(事務局より、資料3、4の説明とパブリックコメントの開催概要について説明)</p>
速水委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメントはどのような形で発表し、意見を貰うのか。</li> <li>・HPと役場内にて閲覧できる。</li> </ul>

速水委員	・そのやり方では、村民が資料等を見ることができず、上手く意見を聴取できないのではないか。
事務局	・HPのみならず広報・ユウテレ白馬にてパブリックコメントの実施を掲載し呼びかける
鈴木委員	・計画内容が把握できるように概要版を配布し、その後に広報等で意見を聴取するやり方はどうだろうか。
委員長	・周知の手法に関しては、概要版の配布のみだけでなく広報のページのなかで計画内容が分かるような記載を加えることなども考えられるため、周知の手法についてはよく検討するように。 ・そのほか説明の内容で、ご意見等はございますか。
(一同)	・特になし
	4. その他
事務局	・今後のスケジュールについては、パブリックコメントを実施し、住民からの意見を貰い、3月28日に公共交通会議を開催する。会議の内容としては、網形成計画の決議をとる予定となっている。  5. 閉会

以上